

都路

日本橋〜京都

都路は五十路あまりに三つの宿時へて咲くや江戸の花浪静かなる品川やや
がて越え来る川崎の軒場ならぶる神奈川は早や程ヶ谷のほどもなく暮れて戸
塚に宿るらむ紫匂う藤沢の野もせに続く平塚もものあわれや大磯か蛙鳴く
なる小田原は箱根を越えて伊豆の海三島の里の神垣や宿は沼津のまこも草さ
らでも原の露払ふ富士の根近き吉原と共に語らん蒲原ややすらふ由比の宿な
るを思う興津に焼く塩の後は江尻のあさぼらけ今日は駿河の国府行く暮れに
数ある鞠子とは渡る岡部の鳶の道千歳の松の藤枝よよしや島田の大井川渡る
思いは金谷とて照る日光は日坂に賑う里の掛川かけて袋井吹く風の登る見
付けのやはたとは浜松ヶ枝の年久し時雨し頃も舞坂を遠ち近ち渡る荒居の磯
袖に浪こす白須賀ももとより名のみ二川やや吹く風の吉田こそその名知ら
れし御油の里とけにし花も赤坂の野田にやまさる藤川を岡崎の宿いかならむ
むすぶ池鯉附のかりの夢醒むる浪間の鳴海潟ただここもとに熱田の宮やそう
じわたる桑名の海道の行方は四日市誓いも堅き石薬師庄野の宿りこれぞとよ
齢久しき亀山と遂ぐる人なき関ならじ賤ヶ家ならぶ坂の下誰が土山に座せし
めむむれたる露の水口ににこらぬ末の石部かななどでひとり草津わけ実
も守りは大津とは花の錦の九重に心浮き立つ都ぞと君のことぶき祝たり目出
度かしく

「大食い父さんの歌」

あいうえおかずは
かきくけこれだけ？
さしすせそこなし
たちつてとうさん
なにぬねのみこむ
はひふへほおぼる
まみむめもいちど
やいゆえよくたべ
らりるれろくぜん
わいうえをかわり！

「いるか」

いるかいるか
いないかいるか
いないいないいるか
いつならいるか
よるならいるか
またきてみるか
いるかいはいか
いないかいるか
いるいるいるか
いっぱいいるか
ねているいるか
ゆめみているか

「(りゃん)」

「のこのこのこ」
「どのこのこのこ」
「このこのこのこ」
たけのこきれぬ
そのこのそのそ
そのこのけそのこ
そのこのそのこの
きのこもきれぬ

「って」

あさってきてって
きてまってって
まってあってってって
あってつれてってって
きってかってって
かってはってって
はってもってってって
もってってってだしてってって

「じゃびむ」の名前

寿限無 寿限無 五劫の摺り切れ
海砂利水魚の 水行末・雲来末・風来末
食う寝る所に住む所 藪ら柑子 藪柑子
パイポ・パイポ、パイポのシューリンガン
シューリンガンのグーリンダイ
グーリンダイのポンポッピーのポンポコナー
の長久命の長助

「たろちね」名のみ

みずか
自ら「この姓名は、父はもと京都の産にして、
姓は安藤、名は慶蔵、字を五光と申せしが、
わが母三十三歳の折り、ある夜丹頂の鶴を夢見て
わらわを孕めるがゆえ、垂乳根の胎内を出しときは
鶴女鶴女と申せしが、それは幼名、成長ののち
これを改め千代女と申し侍るなり。

「平林」の読み方

たいらばやしかヒラリンか
いちばちじゆうのもつくもく
ひとつとやつつでトッキッキ

東海道五十三次地図

